

全体会閉会の挨拶

永戸祐三（日本労働者協同組合連合会）



少し寒い中でしたが、たくさんの方がご参加いただきありがとうございました。378名の方が全体集会にご参加いただきました。今日は一番後ろの席に韓国の自活支援機関協会釜山支部の方が38名、特別ゲストで参加をされました。

ひとこと感想を述べて閉会の挨拶に代えさせていただきます。と思います。

今日のリレートーク、佐木先生の話、堀内先生の話聞いて社会が本当に変わるなという実感を持ちました。多分、佐木先生と堀内先生の話をつなぐものがリレートークだったのではないかという印象を持ちました。協同集会を始めて9回になりますが、やはり協同集会っていいなあ、いろいろな違いがある人たちが何かしら共通の基盤というものを浮き彫りにしてくれたなあ、と非常に強く思いました。

それにつけても、佐木先生の話は、（先生は）何も言われなかったけれども、最も強烈なアメリカの戦争脅迫政策への批判だったな、と思います。

佐木先生の話の中での、あの刑務所を次から次へと移らされた人のことを「ならず者」という感覚だけで佐木先生が見ていたら、あ

の強い人間的共感という話になっていかなかったらと思います。

堀内先生のILOのディーセント・ワークについての話がありました。これは日本の社会で今、本当に必要になっているキーワードであろうかと思います。誰だって人間として価値ある生き方をしたい、それを人間の尊厳ある生き方とするとすれば、尊厳ある人生・生活・生き方にはふさわしい労働がある。人間らしい労働が尊厳ある生活をつくる。それを総じてディーセント・ワークというんだな、と聞いたように思います。

新生パワーが実践のネットワークによって相乗の効果を生み、地域での強力なパワーに変わりつつある、その中に協同の意義の深まりがあるように思いました。そのこともまた、明日深められるといいと思います。

先日、大学の同窓会がありました。さまざまな人が北朝鮮の拉致事件の家族の苦しみや悲しみを思っているのですが、その発露の仕方は非常に違いがあるように思われました。「將軍様」という言葉、拉致の異常さ・異様さについて人は笑うわけですが、日本だって昭和20年まで天皇を現人神として世界へ

侵略しようとしたのではなかったのか。もうそれを忘れて、あのことだけを笑えるのだろうか、私は激しく言いました。「おまえは今の常識と外れてる。」と言われましたが、そうではないと思います。何10万、何100万という人を殺した事実は変わっていません。そのことと、今の事態をどう考えるのかということが、やはり根本解決をめざす人間の出発点ではないだろうか。自分の犯した誤りは忘れやすいけれども、自分の受けた痛みは長く覚えるというのは人間の常かもしれません。しかし、もっと根本から協同という思想を深めて、人間同士は何故いがみ合い、殺しあうようにさせられるのか、ということはこの集会から真剣に考えたい、と思いました。

大量にモノをつくることが最高の価値であった時代が終わり、経済の成長が人間の幸福を増進するという時代が終わった、そのとき人々は「人間らしい」とはどういうことかと問うた。今のままで人間らしい生き方・働き方なのかと問うた。そして人間らしい関係を再生する地域への活動というものが、パネラーの一言ひとことから受け止めることができたように思います。

「事が動く」と自信を持って最初からやられた人はいなかったように思います。ところがやっているうちに、人との関係で「事」が動き始めた。事態が動くとき改めてさらに人間の関係が変わっていくということの中に、地域の変化、生活の変化、人々の関係の変化というものを実感する。こういうことが人に伝えられた時に、人は無限の力を発揮するという思いを今日の集会でいたしました。

明日、分科会でさらに深まるであろうし、「もっとこういうふうにしたらいい」と創意や工夫にあふれた発言が続く期待が湧いてきました。ぜひ明日の分科会で皆さんで深めて

頂きたいと思います。

それにつけても、今もって「田中(角栄)政治」をどうするのか、ということがずっと言われている「政治」が最も遅れるのではないか。何が一番欠けているのか。小泉首相の人気が高いというが、主権者たる国民・市民・働く者に「今、こう動いて欲しい」ということを言っただろうか。「痛みに耐えよ」とは言いました。しかし、国民にメッセージを発しているか、というは何もないではないか。二世政治家ばかりが政治を行う中で、日本社会は破局の道を転げ落ちているのだろう。

それから見ると今日のこの集会に集まった皆さんは、新しい社会への何らかの行動をやらなければいけない、という思いで参加されたのだらうと思います。政府の無策とアメリカの力＝戦争政策だけが突出する今の社会の中で、ふと振り返ってみると多分皆さん一人一人が、ある時は怒りを感じ、しかしながらどうにもできない悲しみや切なさや無力感に打ちのめされながら今日、集まっていると思います。

しかし、自分が人間として生きていこうと思えばあきらめきれない、だからこそ何かやらなければならない。「何かやろうよ」「今、地域や社会が必要としていることは何だろうよ」「自分がやりたいことは何だ」ということを思いながら、ここから一歩出てみよう、と。このことをやれば地域や人々のためになるし、自分もやりたいんだ、ということに、一歩踏み出す勇気を今日の全体集会から掴んで、明日の分科会でその思いを伝えて学び合えたらいいと思います。今日の交流会にもぜひ多く参加して、この集会を盛り上げて頂くことをお願いして、閉会の挨拶とします。ありがとうございました。